

肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状（第2報）

研究分担者：磯田 広史 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：榎本 大 大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科
研究協力者：高橋 宏和 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター

研究要旨：

我が国では全国の都道府県や肝疾患診療連携拠点病院（以下、拠点病院）が連携して肝炎医療コーディネーター（以下、肝 Co）を養成しており、肝炎対策を進めるうえであらゆる場面で活躍することが期待されている。しかしながら、2019 年に実施した調査では、肝 Co の養成数や実際に活動している肝 Co 数には、拠点病院毎にばらつきが認められた。この研究では、2021 年度における 21 施設の拠点病院の肝 Co 活動の現状について調査した。

合計で 951 名が養成され、現在も在職している肝 Co は 714 名（75.1%）であった。2019 年の調査にも参加した 17 拠点病院において、全体の実働率は 2019 年度の 84.2% から 85.8% とわずかに増加していた。眼科に看護師肝 Co を配置する施設は新たに 2 箇所増えており、自由記載では「まだ実働できていないが歯科に肝 Co を配置した」と回答する施設もあった。

COVID-19 の蔓延下にも関わらず、多くの拠点病院で肝 Co の活動は保たれており、眼科や歯科への配置が進んでいた。

A. 研究目的

肝炎医療コーディネーター（肝 Co）は国が実施する肝炎患者等支援対策事業において全国で養成・配置が進められており、正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検促進、キャリアに対する適切な受診・受療勧奨、肝炎患者やその家族からの相談に対する助言など、様々な活躍が期待されている。2019 年度に実施した全 70 あまりの肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）のうち 17 施設における肝 Co の配置状況調査では、現職の肝 Co 数は全体で 480 名であり、実働率は 78% であったが、施設により 7.9%～100% とばらつきがあった。2020 年以降は COVID-19 の蔓延によりさまざまな活動が制限されることとなり、肝 Co の養成・配置や活動も制約されることが懸念された。今回は新たに 4 施設を加え、2021 年度における肝 Co の配置や活動状況について調査し、前回調査からの変化を明らかにした。

B. 研究方法

全国 21 拠点病院において 2021 年度現在勤務している肝 Co の人数（現職数）、実働数、職種、配属部署等についてアンケート調査を行った。実働の定義は、厚生労働省健康局長通知「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について（健発 0425 第 4 号）」に示されている肝 Co の基本的な役割を含む何らかの活動を実施していることとした。

C. 研究結果

21 拠点病院で合計 951 名の肝 Co が養成されており、現在も在職している肝 Co は 714 名（75.1%）であった。実働率は全体で 83.6% であり、9 施設が 100% と回答したが、31.7% や 44.4% と回答する施設もあった。

前回調査にも参加した 17 拠点病院において、全体の実働率は 2019 年度の 84.2% から 85.8% とわずかに増加していた。実働率が低下した 4 施設のうち、岐阜大学は 12.7% 低下

(57.1%→44.4%) していたが、他の施設は2%未満の低下であった。増加した5施設のうち、宮崎大学では22.3% (44.4%→66.7%)と最も増加していた。

実働する肝Coの職種は、2019年度と同様に看護師が最も多く、臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士の順に多かった(図2)。全体におけるそれぞれの職種が占める割合には変化がなかった。眼科で看護師が肝Coとして実働する施設が2ヶ所増えていた(図3)。自由記載欄では「眼科や歯科に配置はしているが、まだ実働はできていない」と回答する施設もあった。

図1 肝Coの現職数・実働数(2021年度)

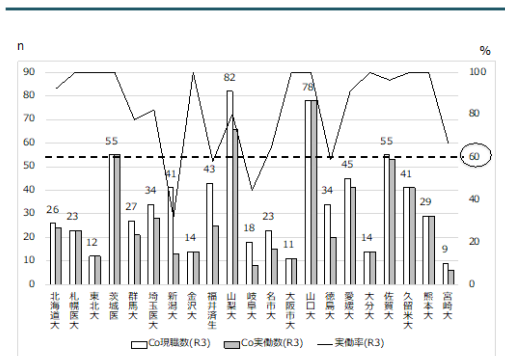


図1) 肝Coの現職数・実働数

図2 肝Coの職種・全体(2021年度)

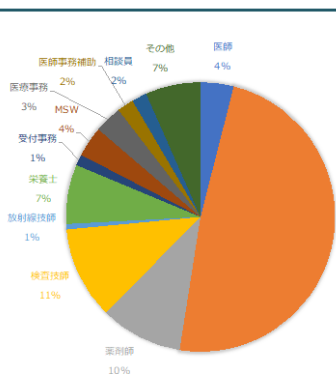


図2) 肝Coの職種・全体(2021年度)

看護師肝Coの実働する診療科(2021年度)

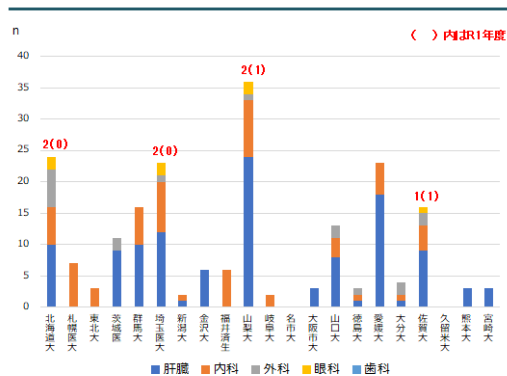


図3) 看護師肝Coの実働する(2021年度)

D. 考察

COVID-19の蔓延による肝Coの活動性低下が懸念されたが、ほとんどの拠点病院では維持あるいは増加していた。

肝炎情報センターが開催する肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会や日本肝臓学会が開催する学術集会のメディカルスタッフセッション等での報告では、多くの拠点病院がウェブ会議システムやマスメディア、SNS等を活用して非接触型の啓発イベントや研修会・情報共有を行なっていることが報告されている。また、人数制限やいわゆる3密の回避などの感染対策に十分配慮しながら従来の活動を展開している施設もある。報告された活動内容は、術前検査等で判明した肝炎ウイルス陽性者を非専門の診療科から肝臓専門医への受診につなげる臨床検査技師や看護師の取り組みや、肝臓病教室や料理教室を開催する理学療法士・管理栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなどの取り組みなどであり、全国の拠点病院で多くの職種が互いに連携をとって活躍していることが明らかとなっている。こうした新たな活動に加えて、COVID-19の感染対策に配慮した非接触型の新しい活動方法が広がったことから、コロナ禍においても最低限の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

また、今回の調査では眼科で肝Coが実働していると回答する施設が増えており、「眼科や歯科に配置はしているが、まだ実働は

していない」と回答する施設もあったことから、非専門の診療科への肝 Co 活動の展開が進んできていることが推察された。眼科に肝 Co を配置することで、肝臓内科への紹介率が大きく向上したとする報告もあり、こうしたメリットや配置・活動に至るノウハウを全国で共有することで、今後さらに多くの施設で肝 Co の活躍が促進されることが望ましい。

E. 結論

COVID-19 の蔓延下でも多くの拠点病院で肝炎医療コーディネーターは活動できおり、非肝臓専門の診療科へも配置および活動が徐々に展開されていた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

上記に研究班活動に加えて、佐賀大学医学部附属病院肝疾患センターとして、佐賀県肝疾患対策委員会、佐賀県連携拠点病院および関係機関と連携し、佐賀県における肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

本研究論文を投稿準備中

2. 学会発表

1. ○磯田 広史, 高橋 宏和, 江口 有一郎.
C型肝炎全例治癒に向けた佐賀県の肝疾患診療連携における残された課題. 日本消化器病学会雑誌 117巻臨増総会 Page A83 2020.
2. ○磯田 広史, 高橋 宏和, 江口 有一郎.
佐賀県における肝炎患者の病診連携に関する調査結果と今後の対策. 日本消化器病学会雑誌 118巻臨増総会 Page A213 2021.

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 令和2・3・4年度佐賀県肝炎医療コーディネーター養成研修会・スキルアップ研修会 佐賀大学医学部附属病院、同肝疾患センター

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし